松江市文化財調査報告書　第67集

文化財愛護
シンボルマーク

大久保谷遺跡発掘調査報告書

1996年3月

松江市教育委員会
財団法人松江市教育文化振興事業団

松江市文化財調査報告書　第67集

文化財愛護
シンボルマーク

大久保谷遺跡発掘調査報告書

1996年3月

松江市教育委員会
財団法人松江市教育文化振興事業団

例　　言

1．本書は，平成７年度において実施した松江勤労者体育団地造成工事にかかる大久保谷（おおくぼだに）遺跡の発掘調査報告書である。

2．本発掘調査は，財団法人 松江市開発公社から松江市教育委員会が依頼を受け，財団法人 松江市教育文化振興事業団が委託を受けて実施したものである。

3．調査の組織は下記の通りである。

依頼者　財団法人 松江市開発公社
　　理　事　長　　曽田　　麗
主体者　松江市教育委員会
事務局　教　育　長　　諏訪　秀富
　　生涯学習部長　　伊藤　博之
　　文 化 課 長　　中林　　俊（平成７年６月まで）
　　柳原　知朗（平成７年７月から）
　　文化財係長　　岡崎雄二郎
実施者　財団法人 松江市教育文化振興事業団
　　理　事　長　　大塚　雄史
　　事 務 局 長　　佐藤千代光
埋蔵文化財課調査係長　　中尾　秀信
調査者　調 査 係 長　　中尾　秀信
　　調　査　員　　遠藤　正樹
　　調査補助員　　稲田　　奨
　　作　業　員　　細田　正義・坂本　憲市・坂本貴美子・松並　　清
　　細田千代子・細田ミヨノ・池田　英子・松浦　律子
　　舟木八千代・隅岡　高吉・隅岡　花子

4．調査の実施にあたっては，次の方々の指導と協力を得た。記して感謝の意を表する次第である。

調査指導　　川原　和人 氏（島根県教育委員会文化財課係長）
　　広江　耕史 氏（島根県教育委員会文化財課文化財保護主事）
　　今岡　一三 氏（島根県教育委員会文化財課文化財保護主事）
調査協力　　山内　弘忠 氏（松江市土地開発公社工務第一係長）
　　岩成　　久 氏（松江市土地開発公社庶務用地係長）

5．拓本は，荻野　哲二 氏（松江市教育委員会嘱託員）の協力を得た。

6．出土遺物はすべて松江市教育委員会で保管している。

7．本書の執筆・編集は，遠藤が行った。

文化財愛護シンボルマークとは……

このマークは昭和41年５月26日に文化財保護委員会（現文化庁）が全国に公募し、決定した文化財愛護の運動を推進するためのシンボルマークです。

その意味するところは、左右にひろげた両手の掌が、日本建築の重要な要素である斗栱（ときょう）、すなわち斗と栱（ますひじき）の組み合わせによって全体で軒を支える腕木の役をなす組物のイメージを表わし、これを三つ重ねることにより、文化財というみんなの遺産を過去・現在・未来にわたり永遠に伝承していこうというものです。

文化財愛護
シンボルマーク

本　文　目　次

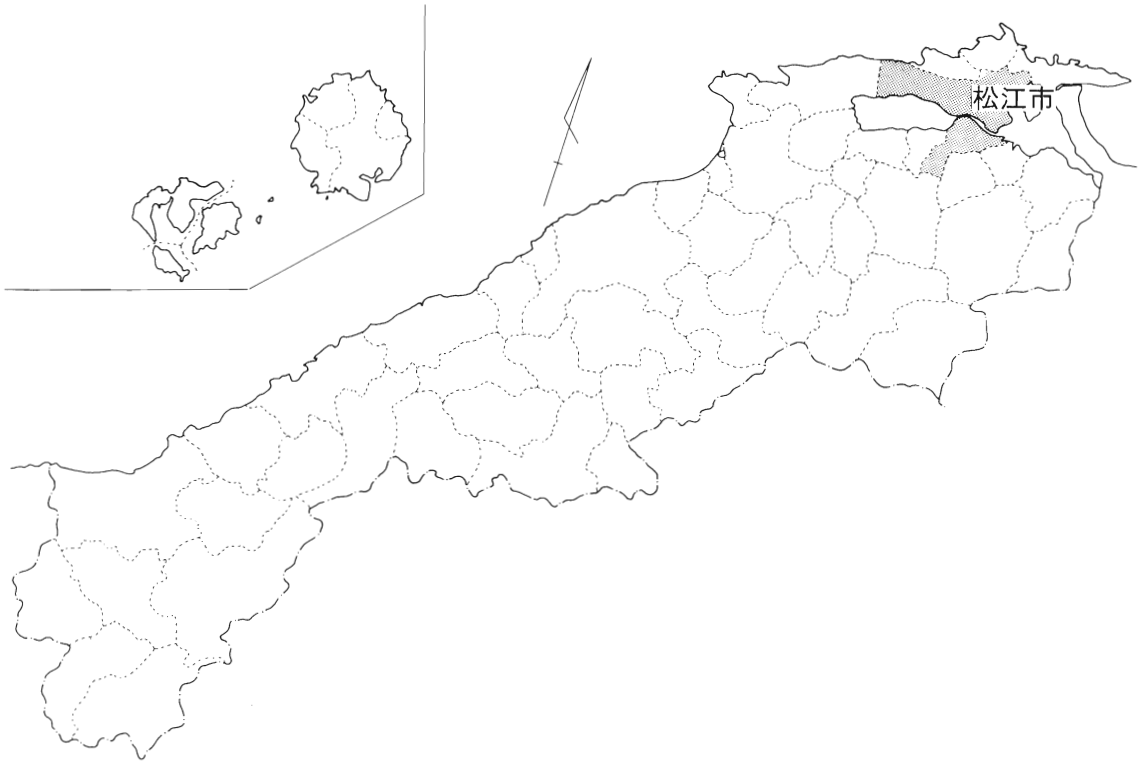
第１章　調査に至る経緯 …… 4
第２章　周辺の遺跡と環境 …… 4
第３章　調査の概要 …… 6
　(1)　調査概要 …… 6
　(2)　出土遺物について …… 13
第４章　小　　結 …… 15

挿　図　目　次

第１図　島根県地図 …… 3
第２図　松江市地図 …… 3
第３図　周辺の遺跡分布図 …… 5
第４図　発掘調査区周辺地形図 …… 7
第５図　発掘調査区域 …… 7
第６図　土層セクション１ …… 8
第７図　土層セクション２ …… 8
第８図　SK－01 実測図 …… 9
第９図　SK－02 実測図 …… 10
第10図　SK－03 実測図 …… 11
第11図　SK－04 実測図 …… 12
第12図　大久保谷遺跡出土遺物 …… 14

図　版　目　次

図版１　SK－01半掘状況，SK－01完掘状況，SK－02セクション（東側から），
　　SK－02セクション（西側から），SK－02半掘状況，SK－02完掘状況，
　　SK－03セクション（東側から），SK－03セクション（西側から） …… 16
図版２　SK－03半掘状況，SK－03完掘状況，SK－04セクション（東側から），
　　SK－04セクション（西側から），SK－04半掘状況，SK－04遺物出土状況，
　　SK－04出土土製品，SK－04完掘状況 …… 17
図版３　Ｔ－１完掘状況，Ⅰ－Ａ区完掘状況，Ⅰ－Ｂ区完掘状況，Ⅱ－Ａ区完掘状況，
　　Ⅱ－Ｂ区完掘状況 …… 18
図版４　Ⅱ－Ｃ区完掘状況，Ⅲ－Ａ区完掘状況，Ⅳ－W区半掘状況，Ⅳ－Ａ区完掘状況，
　　Ⅳ－Ｂ区完掘状況，完掘状況 …… 19
図版５　大久保谷遺跡出土遺物 …… 20



第1図　島根県地図

第2図　松江市地図

第１章　調査に至る経緯

財団法人 松江市開発公社は，平成４年度において松江市大庭町・乃白町地内の山林約17.2haを対象として（仮称）松江勤労者体育団地建設事業を策定した。

本事業にかかる埋蔵文化財の分布調査については，平成４年度において実施し，区域内の丘陵東端部で古墳２基を確認し，現状保存を要請した。しかしその他の区域は樹木が繁茂する状態であったため，現地伐採後に再度分布調査を実施することとした。

その後平成６年度において伐採後の分布調査を実施した結果，丘陵部分で住居跡推定地，横穴推定地，古墳推定地が合計12箇所発見されたため，平成６年度に合計20日間を要して，試掘調査を実施した。

試掘調査は10×２ｍのトレンチを13本設定して実施した。この内Ｔ－２～12では遺構・遺物ともに検出されなかったが，丘陵北側の緩斜面に設定したＴ－１では第２層中から弥生土器，土師器，須恵器の破片が検出され，Ｔ－１下方に設定したＴ－13では焼土壙１穴（SK－01）が検出されるなど，北側緩斜面に住居跡の存在することが推定され，この区域について事前に全面発掘調査を実施する必要が生じた。

発掘調査は財団法人 松江市開発公社からの受託事業として，平成７年６月26日～８月22日までの間，合計28日を要して実施した。

第２章　周辺の遺跡と環境

大久保谷遺跡は，島根県松江市乃白町1278－１に所在する。調査区は乃白町と大庭町を隔てる峠の南方丘陵北端に位置し，北西方向に宍道湖，北東方向に茶臼山を見渡すことのできる景勝の地である。

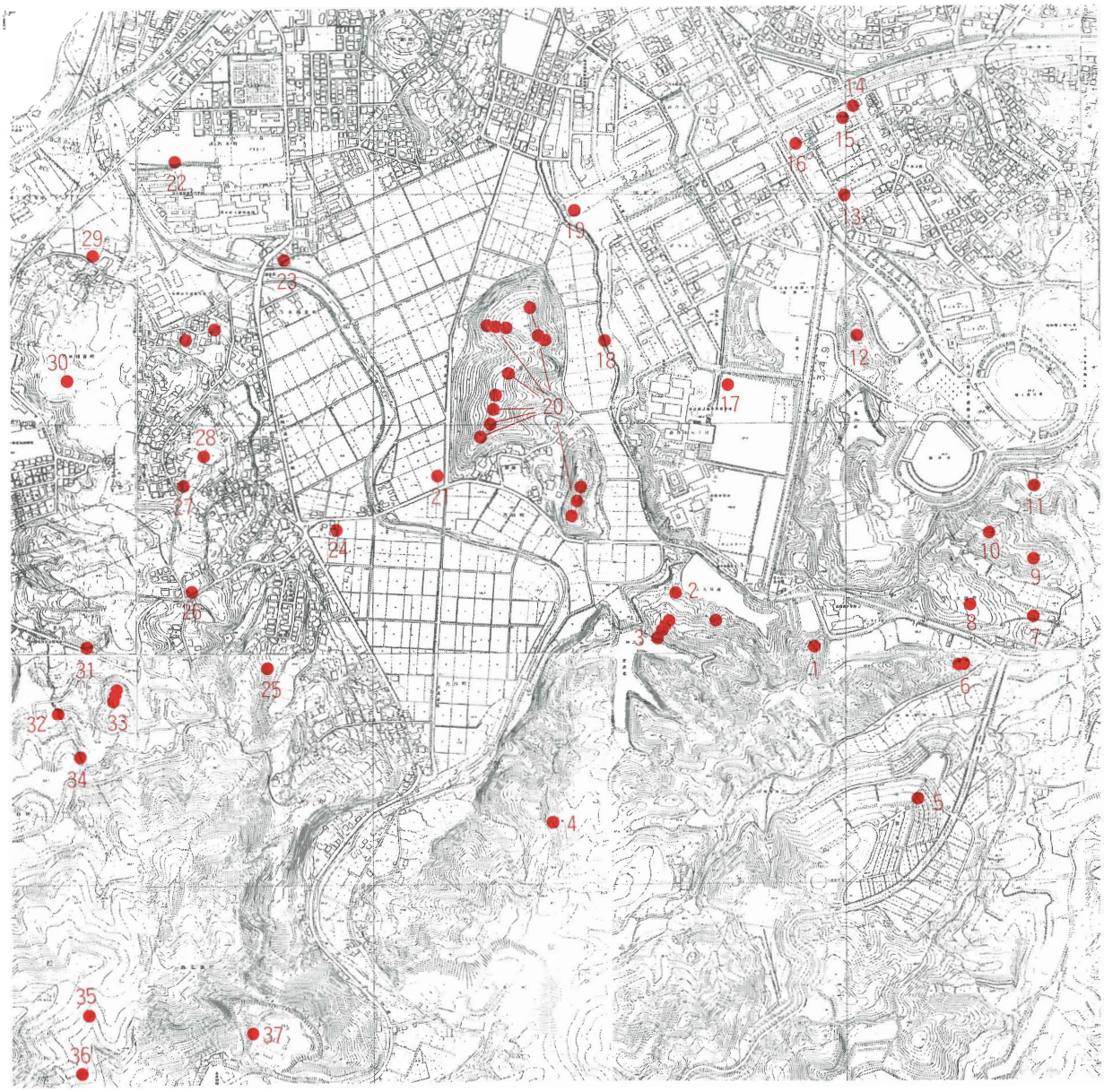
周辺の遺跡では，縄文時代の遺跡は資料が少ないが，下沢遺跡（14）は，黒曜石製石鏃の形式から縄文遺跡の可能性が指摘されている。

弥生時代の遺跡では，弥生前期～古墳前期の土器と共伴して石包丁が出土した欠田遺跡（22）があり，当地区周辺で弥生前期頃から水稲農耕が開始されたことが推測されている。

これに続く遺跡としては，友田遺跡（19）があり，四隅突出型墳丘墓を含む６基の墳丘墓や土壙墓群が検出された。

古墳時代になると，当初は古墳築造は盛んではなかったが，次第に大角山古墳群，向原古墳群，長砂古墳群（13）等の古墳が築造されるようになった。

これに続く遺跡としては，田和山１号墳（20）のような前方後円墳も見られるが，この他，菅沢谷横穴群（４），奥山遺跡（17），松本横穴群（32），弥陀原横穴群（33），すべりざこ横穴群等の横穴墓が頻繁に築造されるようになる。



1．大久保谷遺跡
2．大久保遺跡
3．大久保古墳群
4．菅沢谷横穴群
5．小倉見谷横穴群
6．勝負谷古墳群
7．深田遺跡
8．渋谷遺跡
9．勝負谷古墳
10．勝負谷遺跡
11．神田遺跡
12．運動公園内古墳群
13．長砂古墳群
14．下沢遺跡
15．乃木二子塚古墳
16．二子塚古墳
17．奥山遺跡
18．後友田古墳群
19．友田遺跡
20．田和山古墳群
21．薬師前遺跡
22．欠田遺跡
23．福富Ⅱ遺跡
24．乃白遺跡
25．乃白権現遺跡
26．松本修法壇跡
27．乃白玉作跡
28．福富Ⅰ遺跡
29．神立遺跡
30．廻田遺跡
31．松本古墳
32．松本横穴群
33．弥陀原横穴群
34．岩屋口古墳
35．樋口横穴群
36．下鍛治古墳
37．清水尻遺跡

第３図　周辺の遺跡分布図

律令時代以降の遺跡では，福富Ⅰ遺跡（28）があり，奈良時代の竪穴式住居跡や中世の掘立柱建物跡等が検出されている。

参考文献

松江市教育委員会　『廻田遺跡・廻田古墳』　1988年

乃木郷土誌編集委員会編　『乃木郷土誌』　1991年

松江市教育委員会　『松江圏都市計画事業乃木土地区画整理事業区域内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』　1983年

島根県教育委員会　『出雲岡田山古墳』　1987年

松江市教育委員会・㈶松江市教育文化振興事業団　『菅沢谷横穴群』　1994年

松江市教育委員会　『二名留古墳群発掘調査報告書』　1992年

松江市教育委員会・㈶松江市教育文化振興事業団　『黒田畦遺跡発掘調査報告書』　1995年

島根県教育委員会　『大角山遺跡発掘調査報告書』　1988年

松江市教育委員会　『田和山古墳群発掘調査概報』　1991年

加藤義成　校注　『出雲国風土記』　1965年

島根県教育委員会　『島根県教育庁文化課　埋蔵文化財センター年報Ⅲ』　1995年

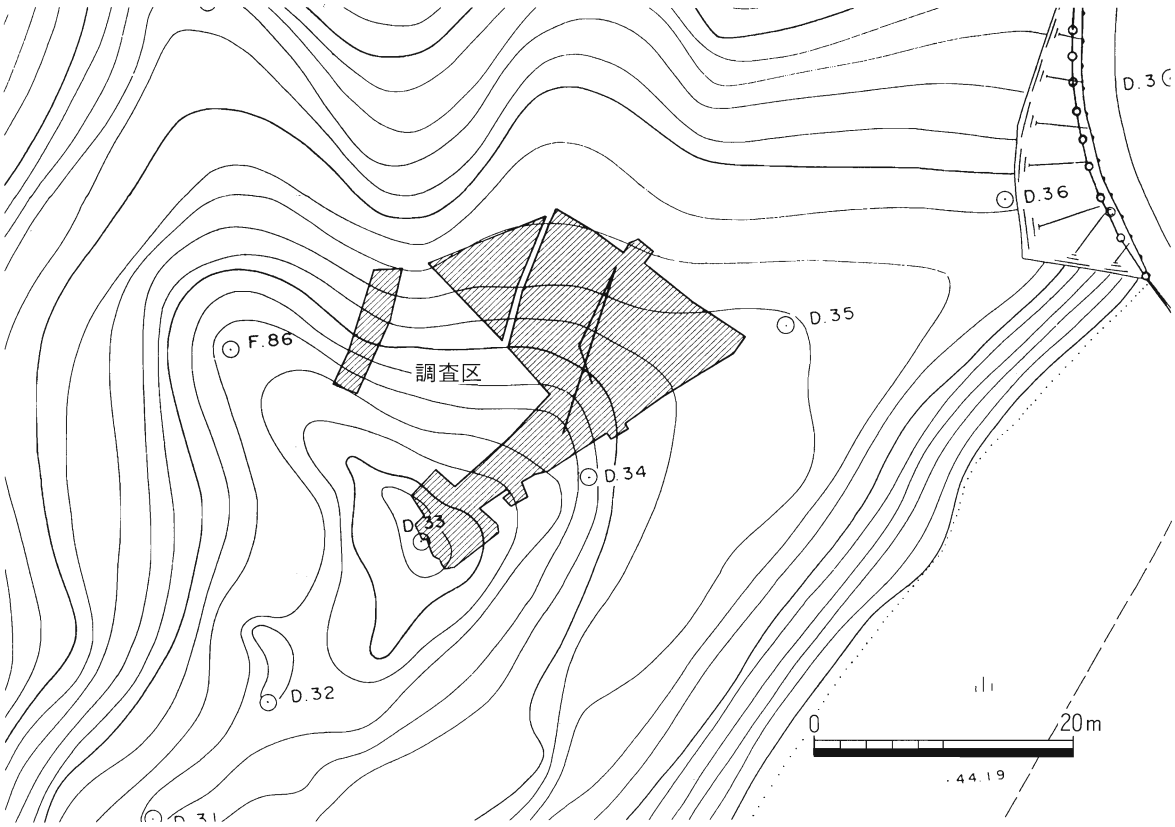
第3章　調査の概要

(1)　調査概要

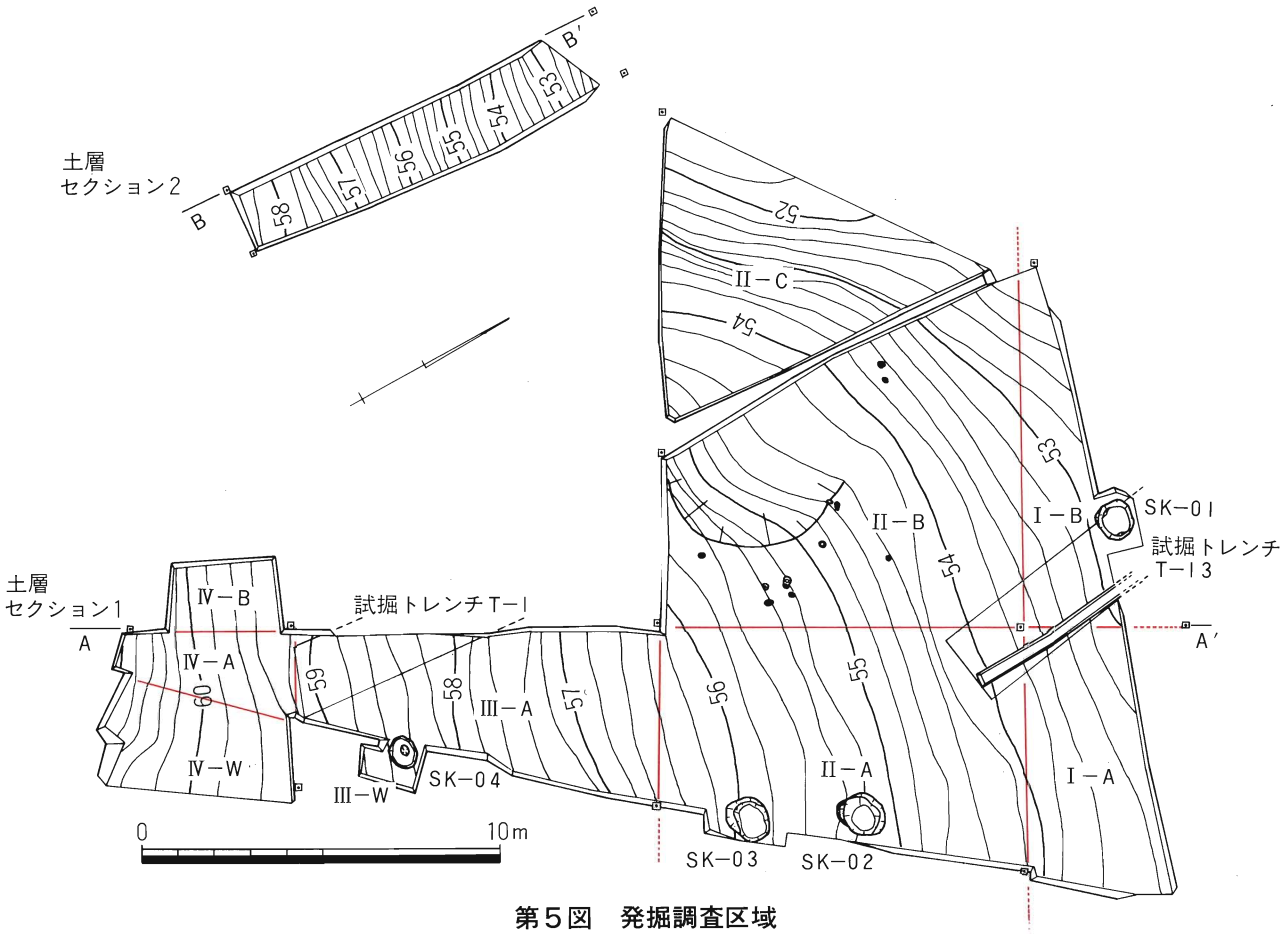
調査地は標高51～62mの北向きの斜面で，調査区西側の緩斜面と調査区東側の急斜面が中央に向かって谷を形成している。調査区東側は試掘時に弥生式土器，土師器，須恵器等の遺物が出土しており，住居址が存在する可能性が考えられた。また同時に，時期は不明であるが焼土壙も検出されており，これらを的確に把握するため，斜面下方からⅠ，Ⅱ，…，東側からA，B，…に区画した10mグリッド（Ⅰ－A，Ⅰ－B，Ⅱ－A，…）を設定し調査を実施することとした。調査区西側は急斜面を成しており，遺構が存在する可能性は低いと考えられたので，トレンチによる調査を実施することとした。その他，検出状況に応じて若干の拡張（W区）を行った。

調査の結果，調査区東側から焼土壙が４穴（試掘時の１穴を含む），ピットが11穴検出されたが，遺物は調査区全体から少量の土器片が出土しただけであった。

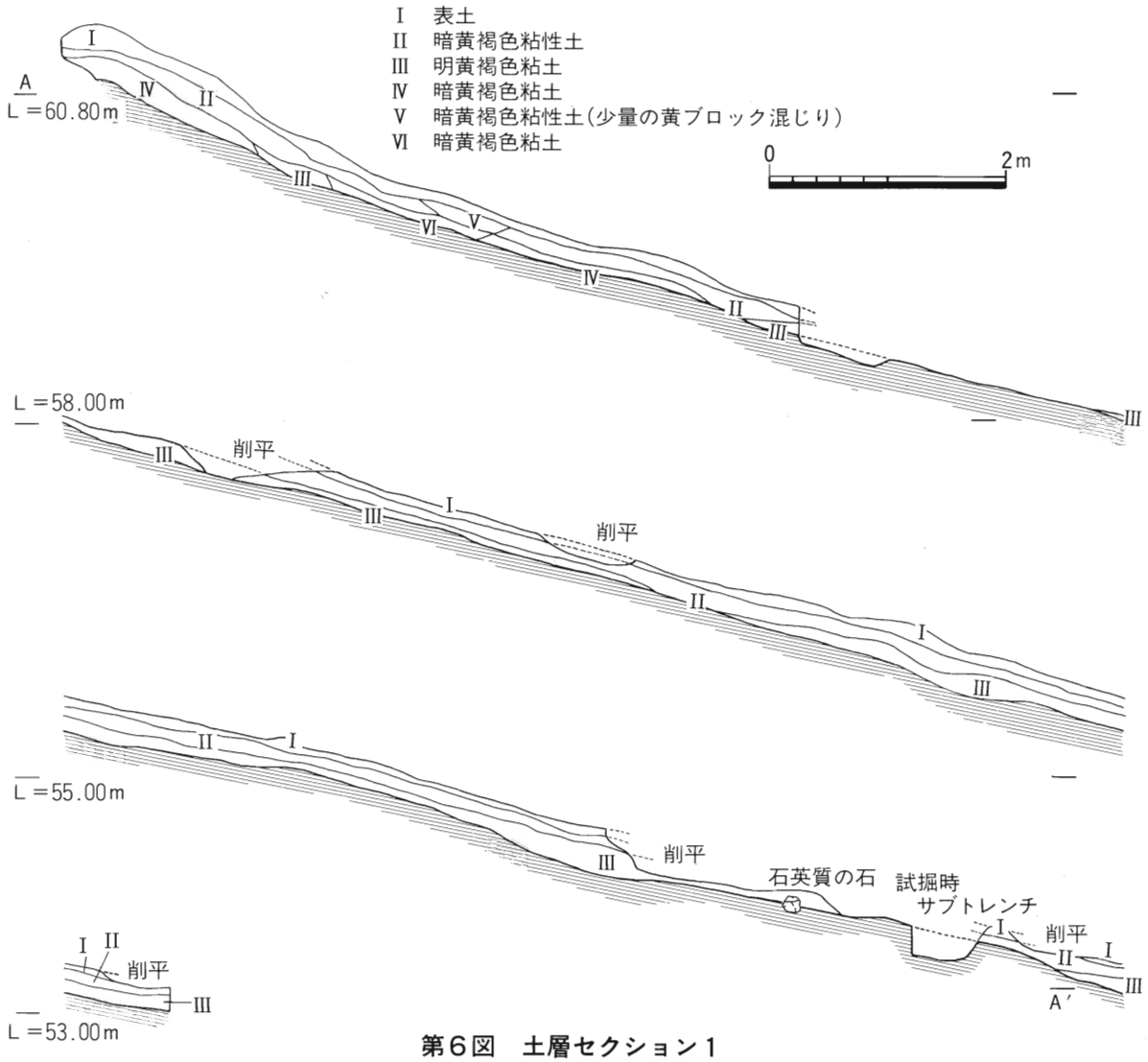
土層の堆積状況は，表土から地山までは深さ30～60cmを測るが，地山は調査区東側が最も浅く，調査区西側に向かって深くなるようである。表土の下は調査区全域において暗黄褐色粘性土（第２層）が堆積しており，調査区東側から須恵器甕片（第12図，№１）が出土している。また表土と第２層の界面から摩滅はしているが，弥生後期の二重口縁の土器に類似した土器片（第12図，№２）が出土しており，流れ込みによって堆積した可能性がある。



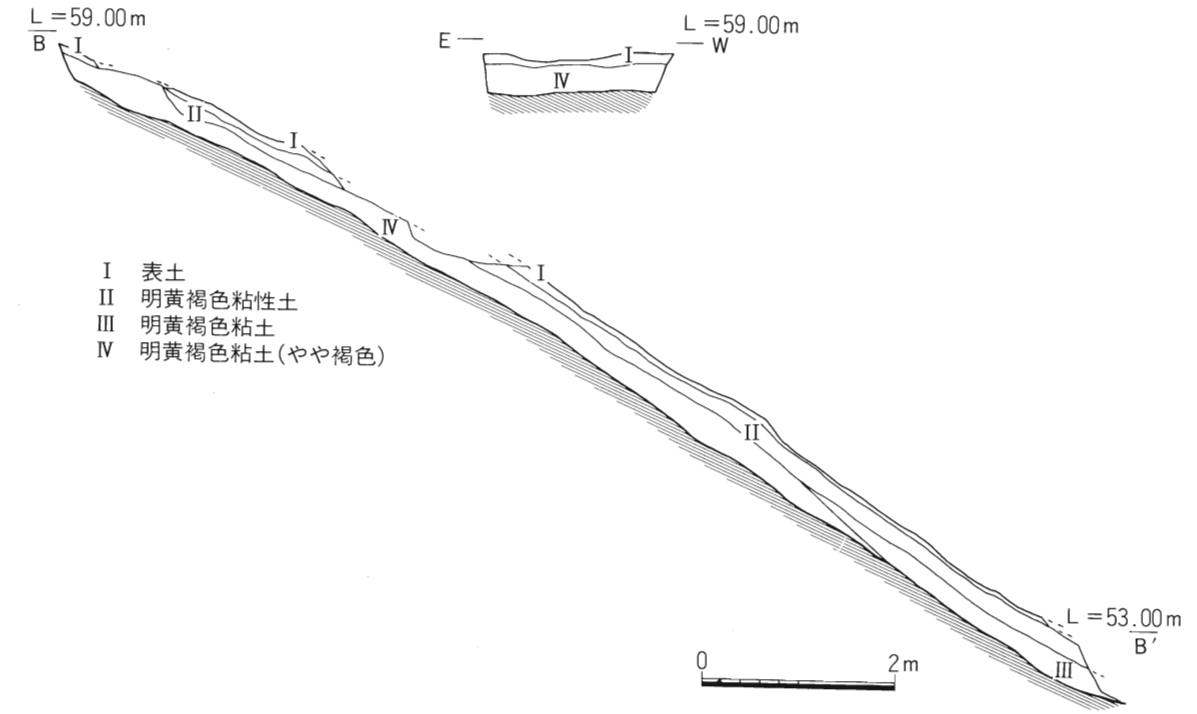
第４図　発掘調査区周辺地形図



第５図　発掘調査区域



第６図　土層セクション１



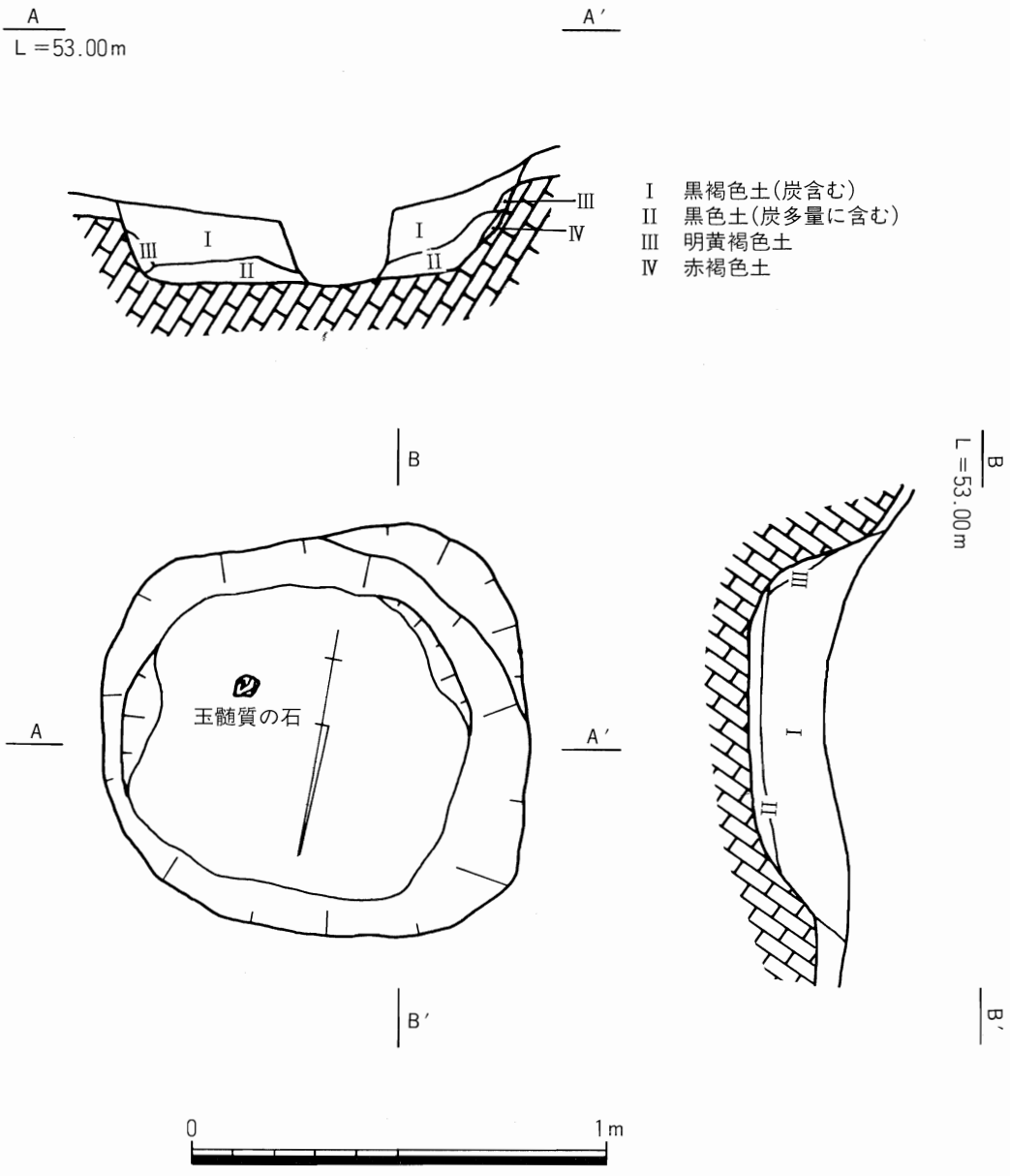
第７図　土層セクション２

その下層（第３層）は，緩斜面の調査区東側においては丘陵の頂部を除くほぼ全域において明黄褐色粘土を確認し，急斜面の調査区西側においても谷斜面裾部から同質土が確認された。

また調査区西側においては，上方から明黄褐色粘土の下にかけて，丘陵頂部に見られる第３層と同質の暗黄褐色粘土（やや褐色）が堆積していたが，遺物・遺構ともに皆無であるので，地山の風化土層と思われる。

これらから明黄褐色粘性土は谷方向に流入し，傾斜の変化点に堆積したと考えられる。谷斜面裾部に残存する明黄褐色粘土から土師器片（第12図，№３）が出土したが，土層の状態を考慮すると，谷に流れ込んだ遺物と考えられる。

遺構は調査区東側から用途不明の焼土壙が４穴（試掘時SK－01を含む）検出された。焼土壙は４穴全てが第３層から掘削され，土壙内に炭片・灰が堆積し，平面を成す底部は焼けていた。



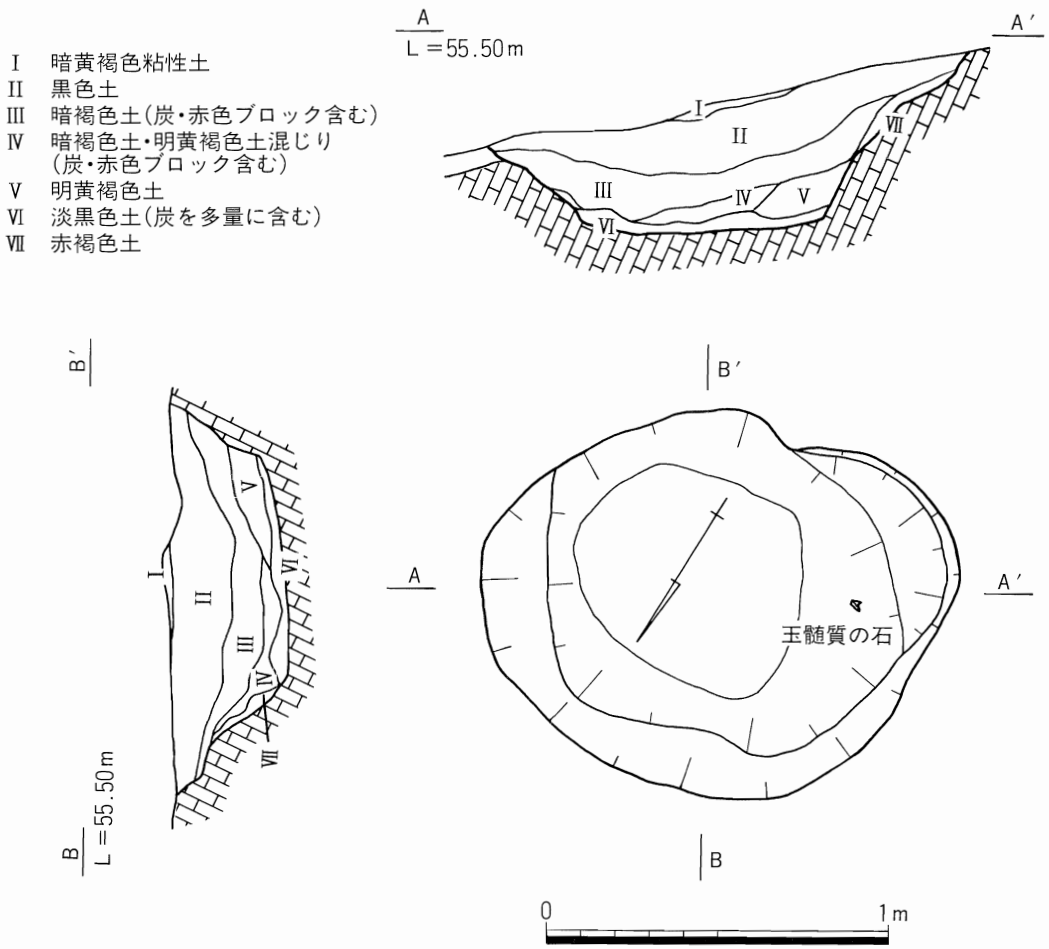
第８図　SK－01実測図

SK－01

SK－01は調査区東側裾部斜面から検出された。法量は102cm×103cm，深さ約30cmで，底部が平坦に加工されている。平面プランは４穴中最も真円形に近く，深さも浅い。壁の立ち上がりは内湾気味に開く形で，底部は焼けていた。土壙内から人頭大の砂岩石一個，玉髄質石小片が出土したが遺物は出土しなかった。

SK－02

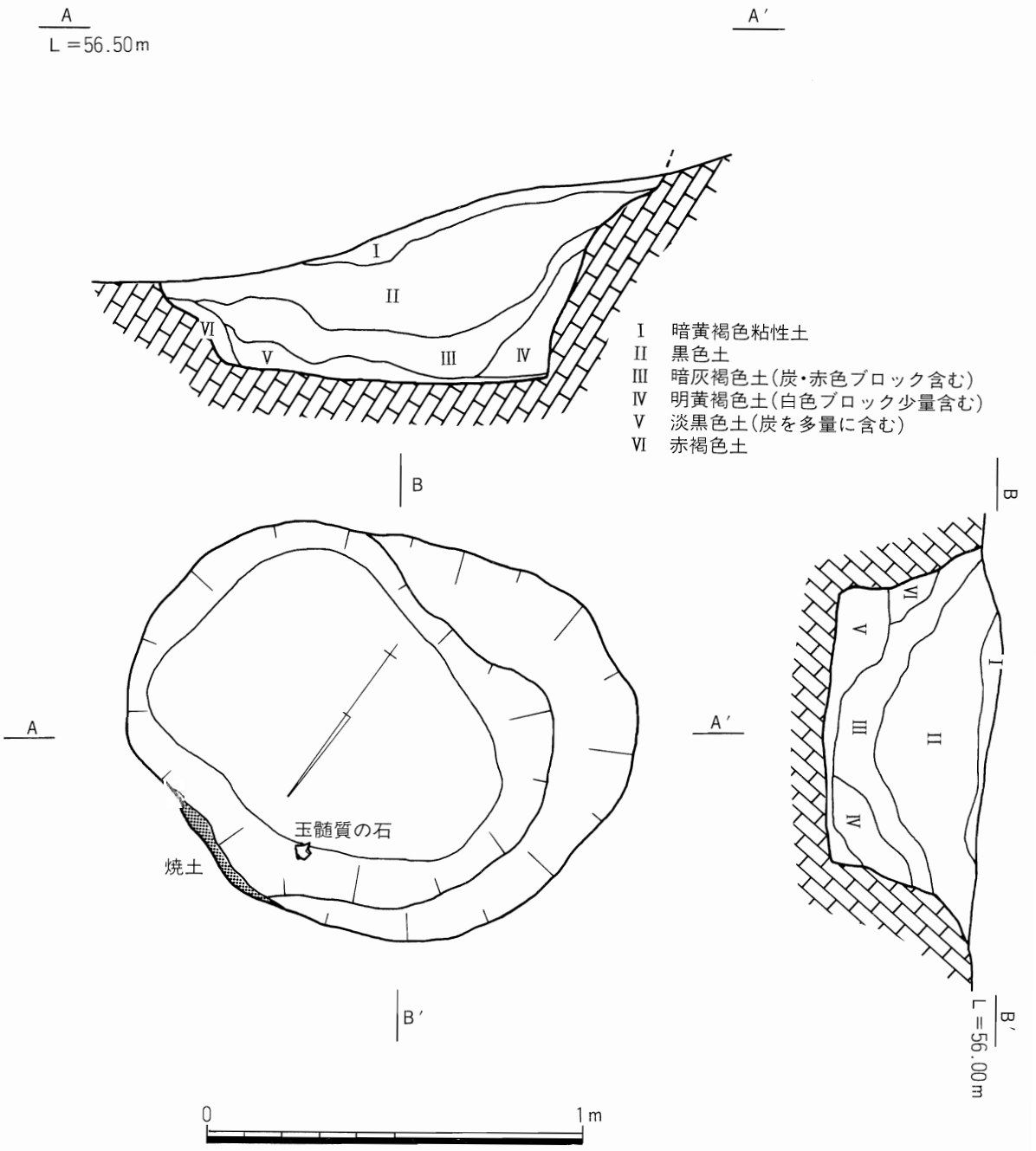
SK－02は調査区東側東端斜面から検出されたが，尾根に沿ってSK－03，04と並んでいた。法量は141cm×114cm，深さ約55cmで，平面プランは４穴中最も大きくやや楕円形を成す。壁の立ち上がりは外反気味に湾曲する形で，SK－01の壁の立ち上がりとの相違が見られる。底部は平坦に加工されており焼けていた。中から玉髄質石小片が出土したが，遺物は出土しなかった。



第９図　SK－０２実測図

SK－03

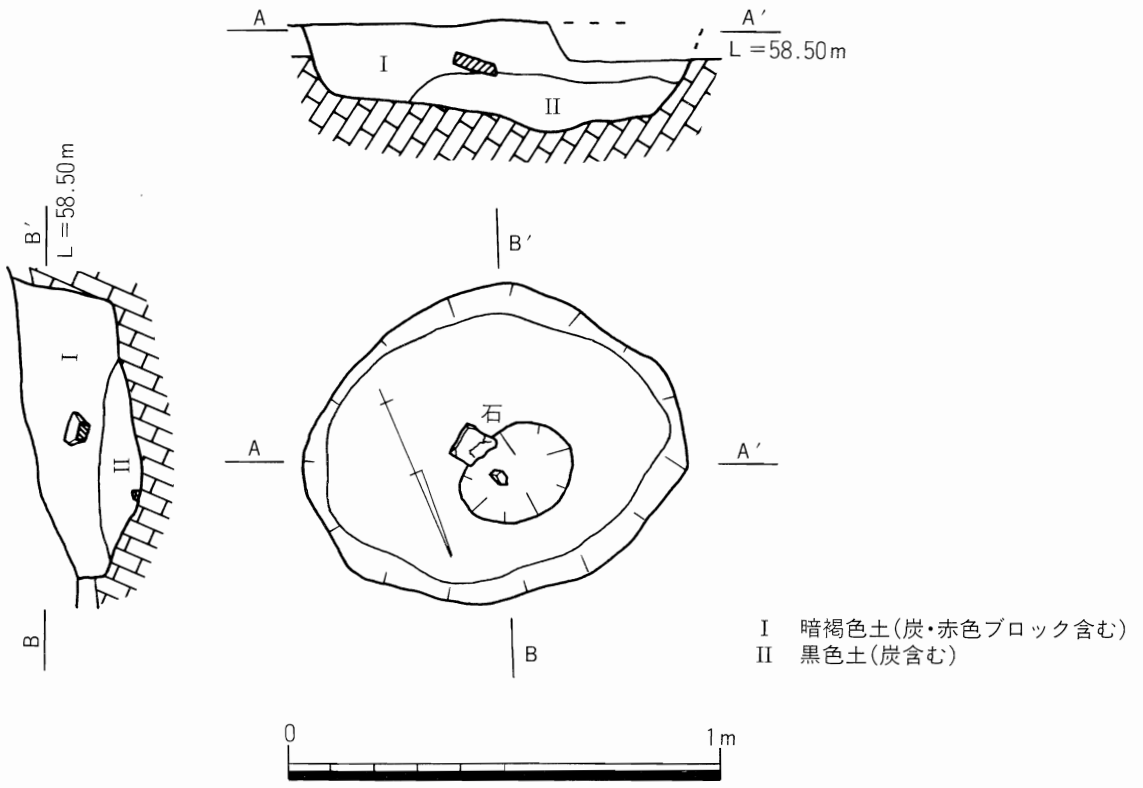
SK－03は調査区東側東端の尾根上から検出されたもので，SK－02の近辺上方に位置する。法量は136㎝×113㎝，深さ約55㎝で，平面プランの形状はSK－02に近く，深さは４穴中最も深い。壁の立ち上がりは外反気味に湾曲した形で，SK－02の壁の立ち上がりに似ている。底部は平坦に加工されており焼けていた。中から石英質石小片・玉髄質石小片が出土したが，遺物はなかった。



第10図　SK－03実測図

SK－04

SK－04はSK－02，03と同じ尾根から検出された。法量は75㎝×89㎝，深さ約25㎝で，４穴中最も高い位置にある。平面プランは４穴中最も小さくやや楕円形を成している。壁の立ち上がりは外方に直線的に広がる形であるが，SK－01の壁の立ち上がりに似ていた。底部はほぼ平坦に加工されているが，中央部が若干凹んでおり，底部全体が焼けていた。中から玉髄質石小片・拳大で偏平形を成す火成岩と推定される石のほか，底部中央の凹みから性格は不明であるが土製品（第12図，№５）が出土した。この土製品については，胎土が鋳型のものと似ていることや，鋳型の型の部分とも考えられる凹面があることから，鋳型の可能性も考えられた。しかし遺物は僅少で鉄滓も皆無であるので，詳細は不明である。



第11図　SK－04 実測図

焼土壙は４穴全てが調査区東側から検出された。土壙内出土の石及び石片は，何れも人為的加工痕はなく，土器片等の年代測定の基準とされる遺物も皆無なため，焼土壙の性格推定は困難である。

ピットについてはⅡ－Ｂ区から11穴確認されたが，住居址が推定されるようなものはなかった。

その他調査区東側からは頂部付近で炭混入の暗褐色土を確認したが，焼けた形跡はなく遺物もないことから，その性格は不明である。

調査区西側については急斜面を成しており，加工段を施した形跡やピットもないことから，遺構は存在しないと考えられる。

遺構観察表

焼土壙	平面プラン	深さ	遺　物	土壙内出土石片	壁の立ち上がり	底部の状況	備　考
SK－01	102cm×103cm	約30cm	な　し	砂岩石， 玉髄質石片	内湾気味に開く	底部全体が焼けている	試掘時検出遺構
SK－02	141cm×114cm	約55cm	な　し	玉髄質石片	外反気味に湾曲	底部全体が焼けている	
SK－03	136cm×113cm	約55cm	な　し	石英質石片， 玉髄質石片	外反気味に湾曲	底部全体が焼けている	
SK－04	75cm×　89cm	約25cm	性格不明土製品	玉髄質石片， 火成岩？	外方に直線的に広がる	底部全体が焼けている	

註）(1)　島根県教育委員会
『森遺跡・板屋Ⅰ遺跡・森脇山城跡・阿丹谷辻堂跡　志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財調査報告書２』
1994年

(2)　出土遺物について

調査区全体も見ても少量の遺物しか出土していないが，出土状況については大部分が２層までから出土している（第12図）。

№１は須恵器甕片で第２層から出土した。胎土は緻密で焼成も良好である。内面のタタキをナデ消した痕跡が見られる。

№２は摩滅が著しく，施文は見られないが二重口縁の弥生式土器に類似した土器で，SK－04上面の表土と第２層の界面から出土した。胎土には１～２㎜の砂粒が混じり，精選された粘土は使っていない。口縁部の立ち上がりは，内湾気味に湾曲し外反するもので，厚手のつくりとなっている。

№３は土師器で，かなり磨耗しているが内面の調整は多少残っており，ハケ目と考えられる。胎土には１～２㎜の砂粒が混じり，精選された粘土は使われておらず，焼成もあまり良くない。

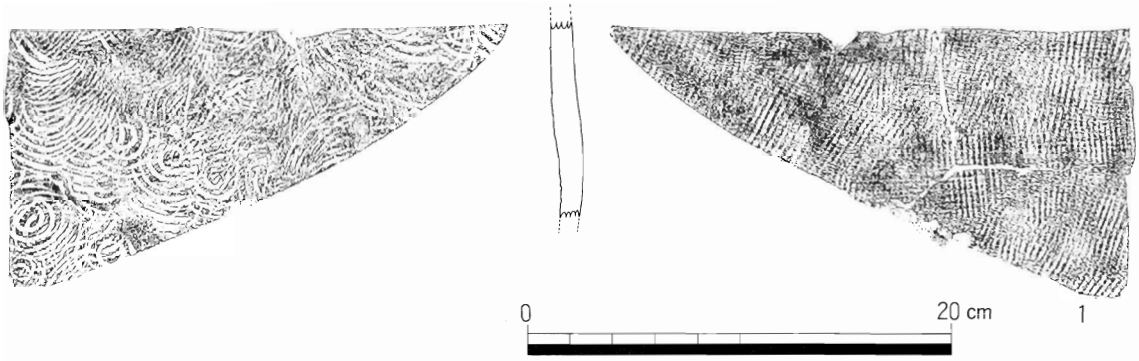
№４は種類不明の遺物で，平底で内外面に指頭圧痕を施しており，胎土は0.5～１㎜の砂粒が少し混じる程度で，粘土は精選されたものを用いている。

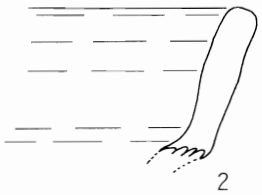
№５はSK－04の底から出土した土製品で種類不明である。胎土には0.5～１㎜の砂粒が混じり，遺物全体が焼けている。

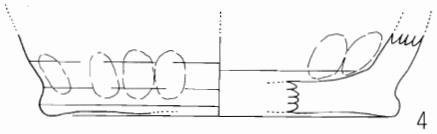
遺物観察表

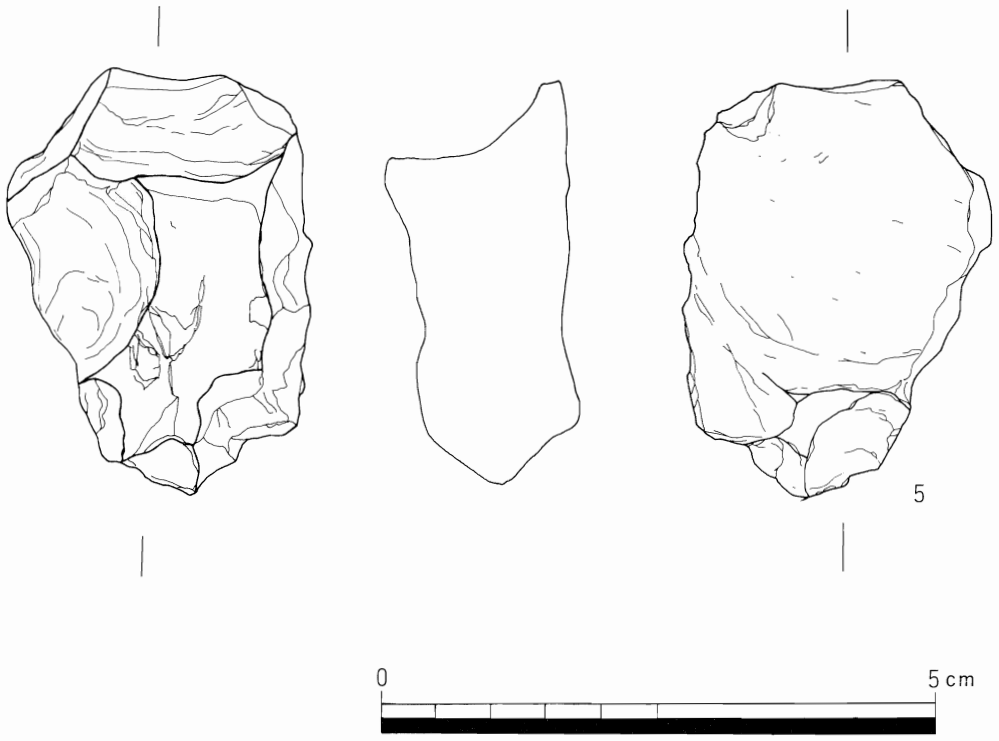
	種　類	器種	出土地点	出土層位	法　量	形態手法の特徴	備　考
№１	須恵器	甕	Ⅳ－A， Ⅲ－A・ Ⅳ－A畦畔	第２層		内面にタタキのナデ消し	胎土　緻密，焼成　良好， 色調　(内面)淡青白色，(外面)暗青灰白色，(断面)淡青白色
№２	弥生式土器		Ⅲ－W	表土， 第２層界面			
№３	土師器		Ⅱ－C	第３層		内面にハケ目	胎土　１～２㎜の砂粒が混じる， 焼成　やや軟，色調　(内面)黄灰色，(外面)赤褐色，(断面)灰褐色
№４	不明		T－１	排土中	底径(9.5cm)	内外面に指頭圧痕	胎土　0.5～１㎜の砂粒が混じる， 焼成　やや軟，色調　(内面)淡黒褐色，(外面)淡黄褐色，(断面)黄灰色
№５	性格不明土製品		SK－04	地山直上			胎土　0.5～１㎜の砂粒が混じる， 焼成　やや硬い，色調　(上面)明黒褐色，(下面)淡褐色

註）(2)　註(1)に同じ









第12図　大久保谷遺跡出土遺物

第4章　小　　結

調査の結果，検出された遺構は時期不明の焼土壙4穴とピットが11穴確認されたが，ピットについては住居址が推定されるような配置を示すものはなかった。

遺物は調査区全体で，本調査で出土した須恵器1片，弥生式土器1片，土師器1片，性格不明土製品1片，不明1片の他，調査区外で須恵器片を1片表採したが，遺物の大半は攪乱を受けていると推定される第2層までのもので，流れ込みによるものと考えられる。第3層以下は遺物が皆無に近く，Ⅱ－C区から土師器片が1片出土しただけであった。

遺構は調査区東側の第3層検出面から焼土壙が4穴検出されたが，SK－04から性格不明土製品が出土したほかは，遺構に伴う遺物が皆無で，焼土壙の時期・性格ともに不明である。

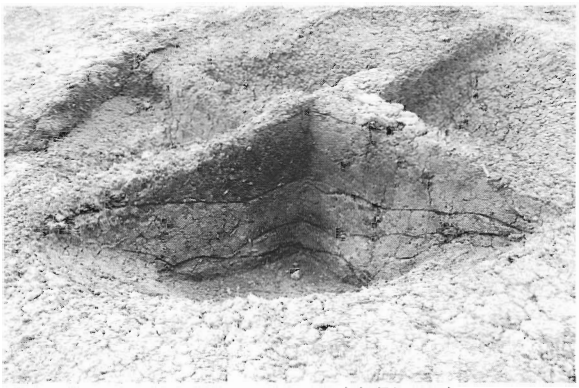
本件調査は松江市教育委員会が平成5年度に実施した試掘調査で検出された焼土壙の性格を確認し，周辺の遺構の広がりを調査することを目的としたが，遺構・遺物とも少なく，その状況は判然としなかった。

なお，隣接地では昨年度から松江市教育委員会の委託を受けた本事業団が，発掘調査を継続して実施しているので，その調査結果もふまえて今後の検討課題としたい。

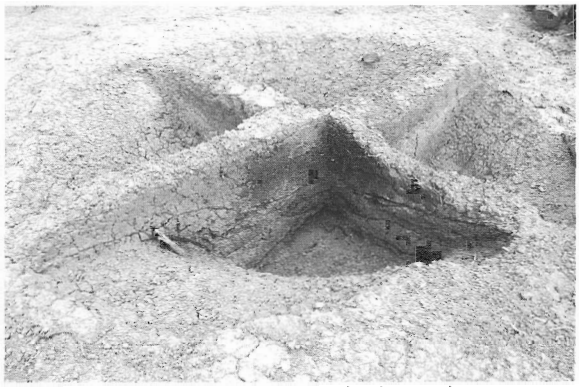
図　　版

SK－01半掘状況

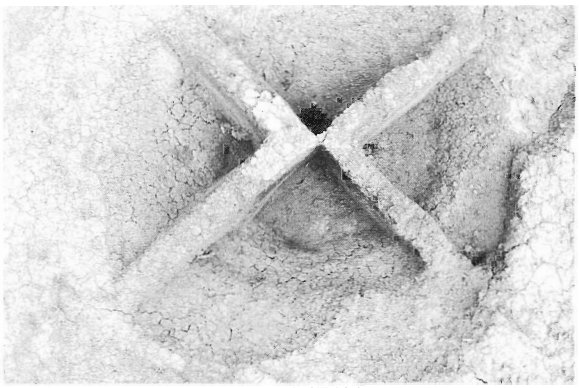
SK－01完掘状況



SK－02セクション（東側から）

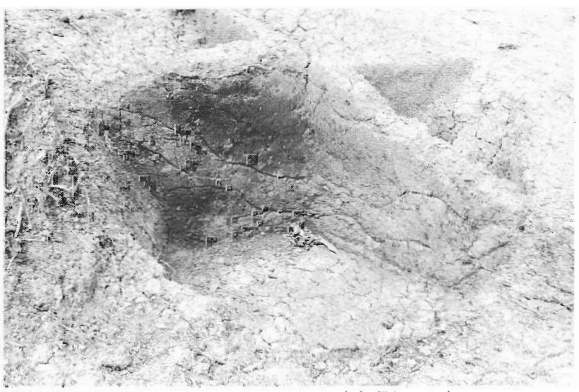


SK－02セクション（西側から）

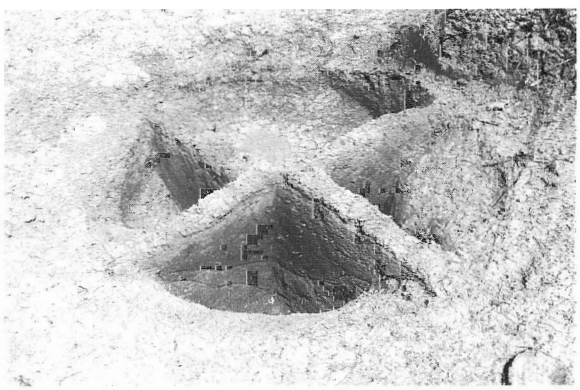


SK－02半掘状況

SK－02完掘状況



SK－03セクション（東側から）



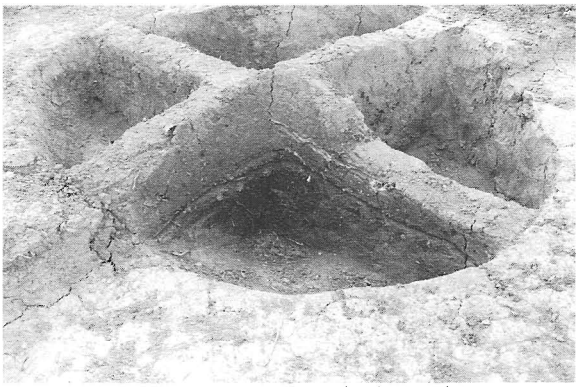
SK－03セクション（西側から）

図版2

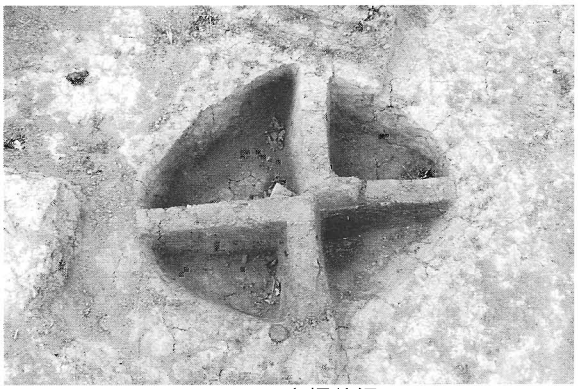
SK－03半掘状況

SK－03完掘状況

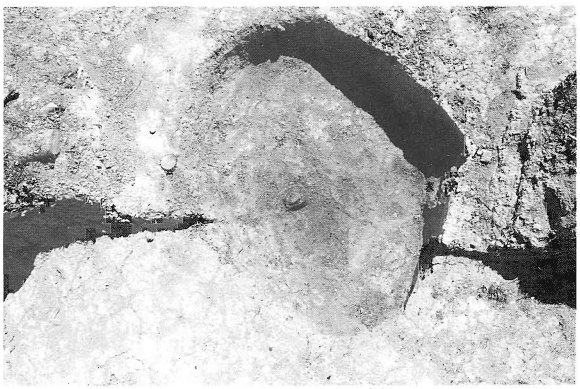
SK－04セクション（東側から）



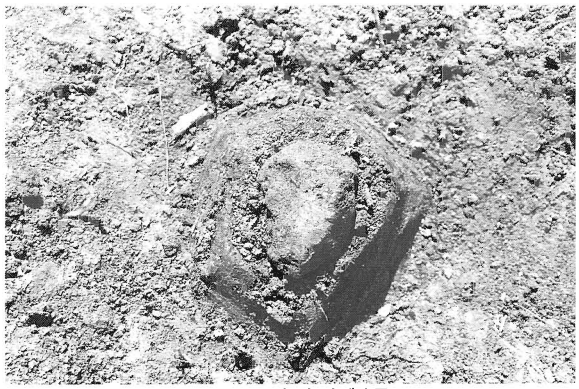
SK－04セクション（西側から）



SK－04半掘状況



SK－04遺物出土状況



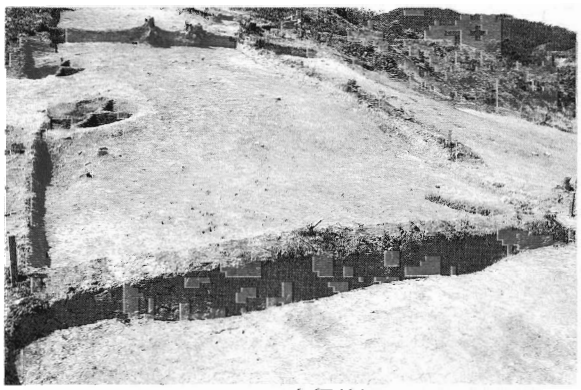
SK－04出土土製品

SK－04完掘状況

Ⅰ－A区完掘状況

T－1区完掘状況

Ⅰ－B区完掘状況

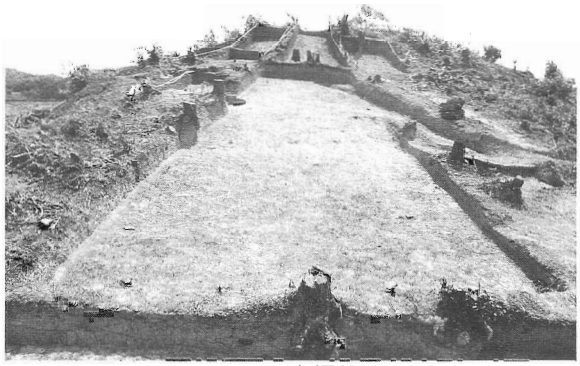


Ⅱ－A区完掘状況

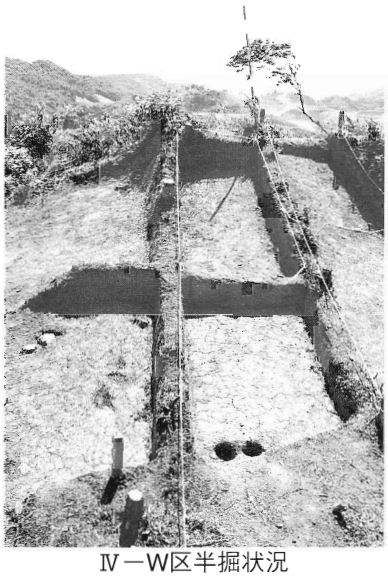
Ⅱ－B区完掘状況

図版4

Ⅱ－C区完掘状況

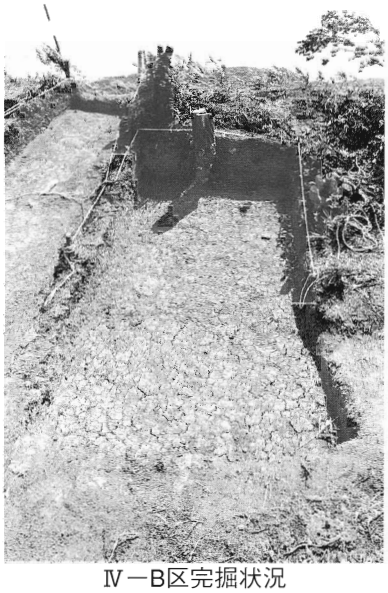


Ⅲ－A区完掘状況



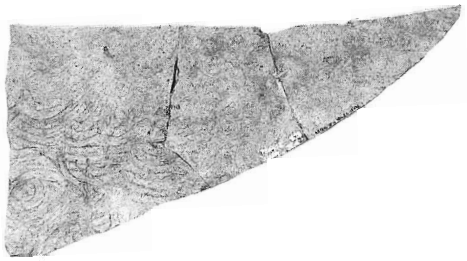
Ⅳ－W区半掘状況

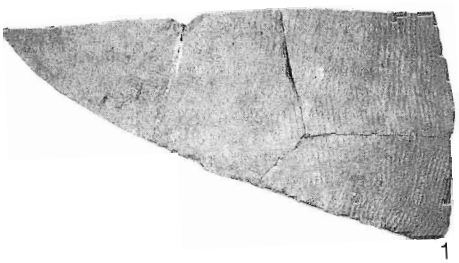
Ⅳ－A区完掘状況



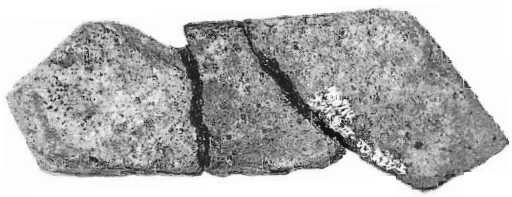
Ⅳ－B区完掘状況

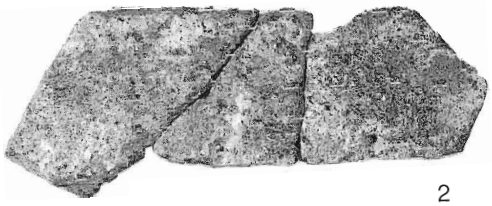
完掘状況



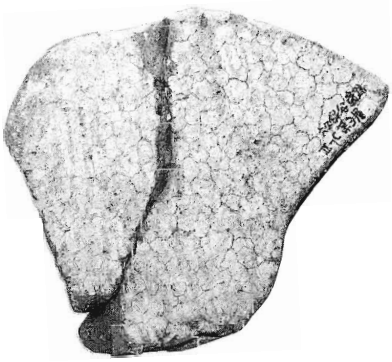


1



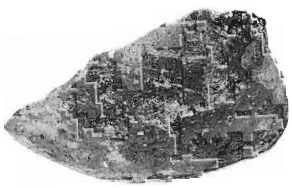


2

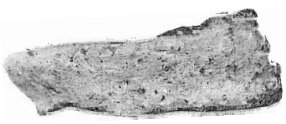


3

断面

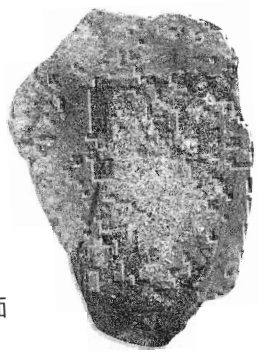


内面



外面

4



表面

裏面

5

大久保谷遺跡発掘調査報告書

1996年3月

発　行　　松江市教育委員会
財団法人
松江市教育文化振興事業団

印　刷　　有限会社　谷　口　印　刷
松江市母衣町89